

令和3年度 第1回阿倍野区区政会議及び「ご意見シート」で
いただいたご意見に関する区役所の考え方

- ① あべのオレンジメールについて、現時点で何人の方がオレンジメールに登録しているか。現状と、これからそれをどうやって増やしていくのか教えてほしい。

オレンジメールの登録者数は、令和3年4月現在、70名です。
登録者を増やすため区社協の見守り相談室から、各地域の集会など
様々な機会をとらえて登録をお願いしています。
今後とも、区役所と区社協が連携しながら、オレンジメールに登録して
いただく方を増やしていくように努めてまいります。



- ② 令和3年度運営方針具体的取組3-1-1【みんなで支えあう地域づくり】で、福祉課題やニーズ把握を行って、地域自らが見守り体制等を構築して、新たなネットワークづくりができるように支援するとあるが、その解決のための制度サービスの周知については、行政が周知徹底できるような体制づくりをお願いしたい。

・地域の福祉課題、ニーズについて、複合的な課題を抱えた方、高齢者の親御さんとその子ども、精神疾患や、ひきこもり、そういう問題、複合的な課題を抱えた要援護者の方が増えている状況ですが、こうした課題解決に向けて、地域の方と、専門職、専門機関とのネットワークづくりを進めて、「総合的な支援調整の場(つながる場)」を開催しています。こういった場を利用して、地域で起こっている様々な福祉課題について、解決に向けて取り組んでいることも周知してまいります。



- ③ 地域福祉については区民の認知度がものすごく低い状況である。地域福祉を推進することが地域の人たちにとってどういう意味を持っているかということをもっと計画の推進の中で広げていくための方法を考えないといけない。運営方針の項目の1つに地域福祉計画の推進のために、いろいろな対策を行っていくことをあげてもよいのではないか。

・「阿倍野区地域福祉計画」の周知については、新型コロナ禍でなかなかイベントなどを活用した周知活動が行いにくい状況ですが、今後の感染状況も見ながら、この「地域福祉計画」の認知度を区民の方に広めていくことを地道に取り組んでまいりますので、引き続きのご支援をお願いいたします。
・経営課題3の取組み内容については、ご意見としてお預かりし、令和4年度の運営方針策定に向けて、議論させていただきたいと思っております。



④ 高齢者(特に後期高齢者で、家族やヘルパーの支援を受けていないひとり暮らしの方など)にもう少し、きめ細やかな支援が必要ではないか

・阿倍野区では、地域における見守りのネットワークを強化し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めるために、阿倍野区社会福祉協議会内に「見守り相談室」を設置しています。

・「見守り相談室」では、地域とのつながりを持たない、社会から孤立した状態の方や支援が届いていない方に対して、福祉専門職がねばり強くアウトリーチ(本人から要請がない場合でも積極的に出向いていく援助)を行い、地域社会で安心して暮らせるように、適切に地域の見守り活動や福祉サービス等につないでいます。

こんな方が身近におられれば 「見守り相談室」へ!



- 夜になっても洗濯物が干したままになっている
- ごみがたまってきたまま放置されている
- 新聞や郵便物がたまっている



地域とのつながりを持たない、社会から孤立した状態の方や支援が届いていない方に対して、専門職であるワーカーが粘り強く関わり、ご本人や家族の思いに寄り添い必要なサービスなどにつなげます。



・また、区内 10 地域ごとに地域の状況に精通した「地域福祉コーディネーター」を配置し、援護が必要な方への個別支援を行うため、「見守り相談室」と連携しながら、個別相談への助言や情報提供、緊急時における一時的な相談支援などを行っています。

・区内に 3 か所設置されている地域包括支援センターは、各地域福祉コーディネーターと連携・協働しながら、介護に関する相談や悩みはもちろん、健康や福祉、医療に関わることなど、さまざまな相談に対応しています。

・地域に気になる高齢者やご家族がおられれば、このような相談支援機関へご連絡いただけるよう、広報・周知に努めてまいります。広報あべの 9 月号では、地域福祉コーディネーターの紹介記事を掲載する予定です。



- ⑤ コロナ禍で生活課題を抱える人がよりいっそう苦しい状況となっているが、区役所相談窓口への相談状況はどのように変化しているか。また、それに対する個別対応やネットワークづくりの支援等について教えてもらいたい。

阿倍野区役所では、庁舎 1 階に「仕事・生活・自立相談あべの」を開設し、生活困窮者自立支援事業を行なっています。

令和 2 年度の相談受付件数は前年度の 2.6 倍に増加しており、新型コロナウイルス感染症対策の影響で訪問支援は減少していますが、相談者とハローワークに同行訪問するなどにより、就職決定につなげています。

	令和元年度	令和 2 年度
相談受付件数	228	604
うち住宅確保給付金関係	2	107
就職決定者件数(増収含む)	44	93
アウトリーチ(訪問支援)	122	71

【見守り相談室による相談】

(単位:件数)

	令和元年度	令和 2 年度
訪 問	532	475
電 話	723	1,115
来 所	40	51
その他	273	307
計	1,568	1,948



〈相談内容〉

(単位:件数)

	令和元年度	令和 2 年度
経済・生活	671	1,001
介護	400	303
福祉サービス	121	299
保健・医療	69	162
見守り訪問	120	128
ごみ屋敷	13	29
いきがいづくり	14	27
家族・家庭	27	25
就労	17	12
虐待	8	8
その他	237	273
計	1,697	2,267



・総合的な支援調整の場(つながる場)…ネットワークづくりの支援

複合的な課題を抱えた人を適切な支援につなげるため、区役所が「調整役」となり、さまざまな分野の相談機関や地域の関係者などが一堂に会し、世帯全体の支援方針を検討・共有するとともに、支援にあたっての役割分担を明確にするための場を開催しています(令和元年度-4回、2年度-4回開催)。

連携に向けて、各相談支援機関を紹介する「つながるガイドブック」を作成・配布しています。



⑥ コロナ禍のなか、地域でのつながりづくり、認知症の方の社会参加の場づくりについて新たな発想と取組みが必要ではないか

・大阪市では、地域の中で認知症の方やその家族が気軽に立ち寄ることができ、悩みごとの相談や情報交換等を通じて孤立予防や介護負担感の軽減を図ることができる場「集う場(認知症カフェ等)」の取組みを支援しています。

・「集う場(認知症カフェ等)」の運営・開催の支援は、認知症強化型地域包括支援センター(当区では、阿倍野区地域包括支援センター)に配置している認知症地域支援推進員が行っています。

・阿倍野区には5か所の認知症カフェがあります。新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、再開できない状況が続いていますが、アフターコロナを見すえ、飲食は行わず、体操を行うなどを検討している団体もあると聞いています。

・まずは、ワクチン接種を促進し、新型コロナウイルス感染拡大を抑制することが急務と考えられますが、今後、支援対象団体のご意見もお聞きしながら、新たな集う場のあり方について、ご議論させていただければと考えております。



⑦ 令和2年度の見守り訪問ボランティア活動の実績 56,367 回は、具体的にどのような活動か。

・活動内容と件数は次のとおりです。

(単位:件数)

見守り訪問(個別訪問・電話)	9,394
見守り活動(子どもの見守り等)	35,531
配食サービス	1,327
食事サービス	319
百歳体操	773
なにわ元気塾(介護予防教室)	220
ふれあい喫茶	107
ミニ・デイ	81
世代間交流会	4
地域清掃	3,474
その他	5,137
計	56,367

